



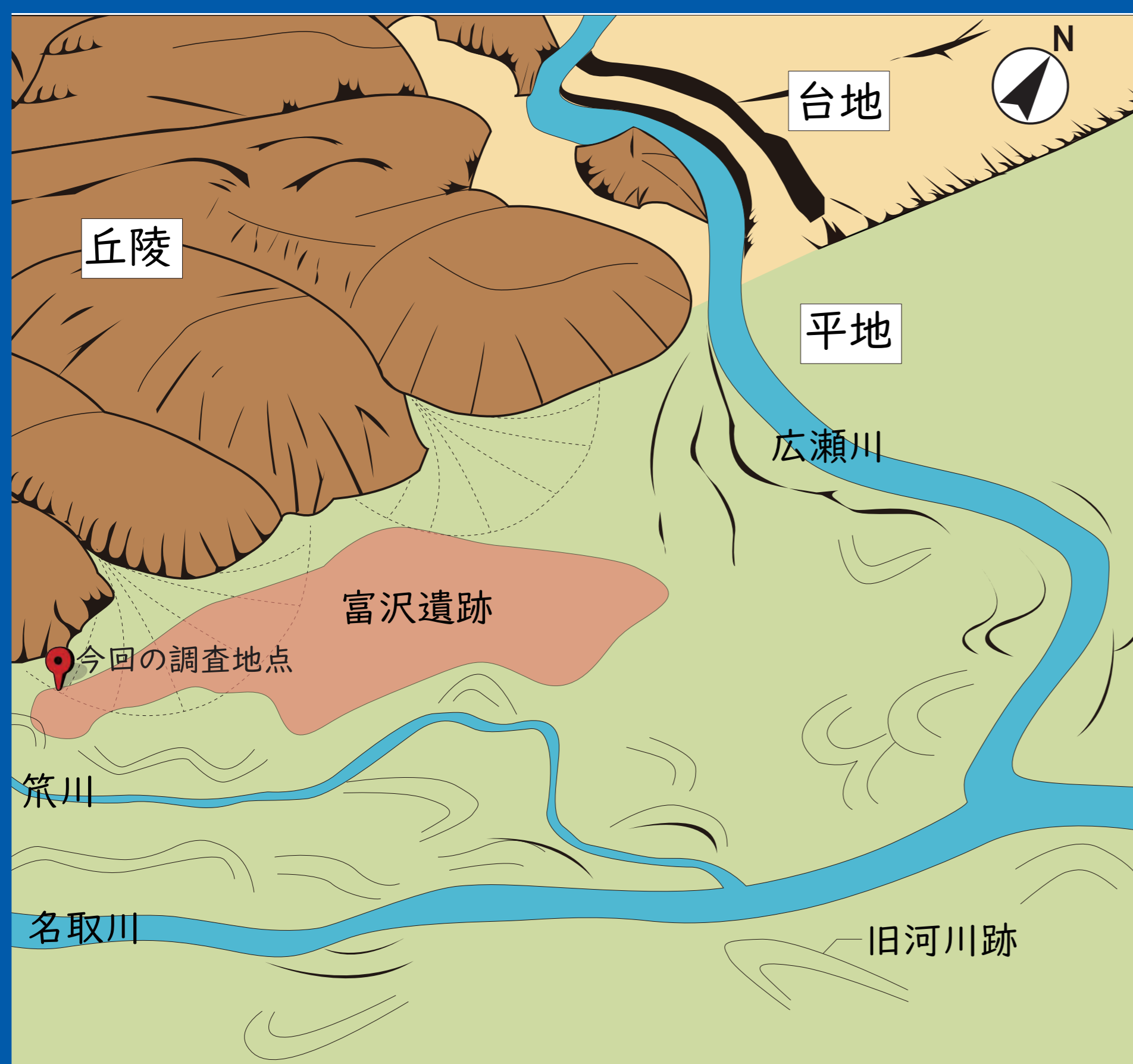
弥生時代の米づくり



遺跡の詳細な解説動画
はこちらから！

とみざわ

③富沢遺跡（仙台市太白区）



広瀬川と名取川、^{ざる}策川に^{はさ}挟まれた低地に立地し、旧石器時代から近世までの生活の痕跡が広い範囲で確認されている遺跡です。

開発に伴い、昭和57年から調査が開始され、現在まで150回以上の発掘調査が行われています。

令和5年の調査の結果、弥生時代、古墳時代、古代、近世の水田跡と洪水由来の砂層を確認しました。

これまでの成果から、遺跡東部では水田跡が多くみつっていますが、西端部では調査例が少なかったため、今回の発見は弥生時代の水田の広がりを捉えるための手掛かりとなります。

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

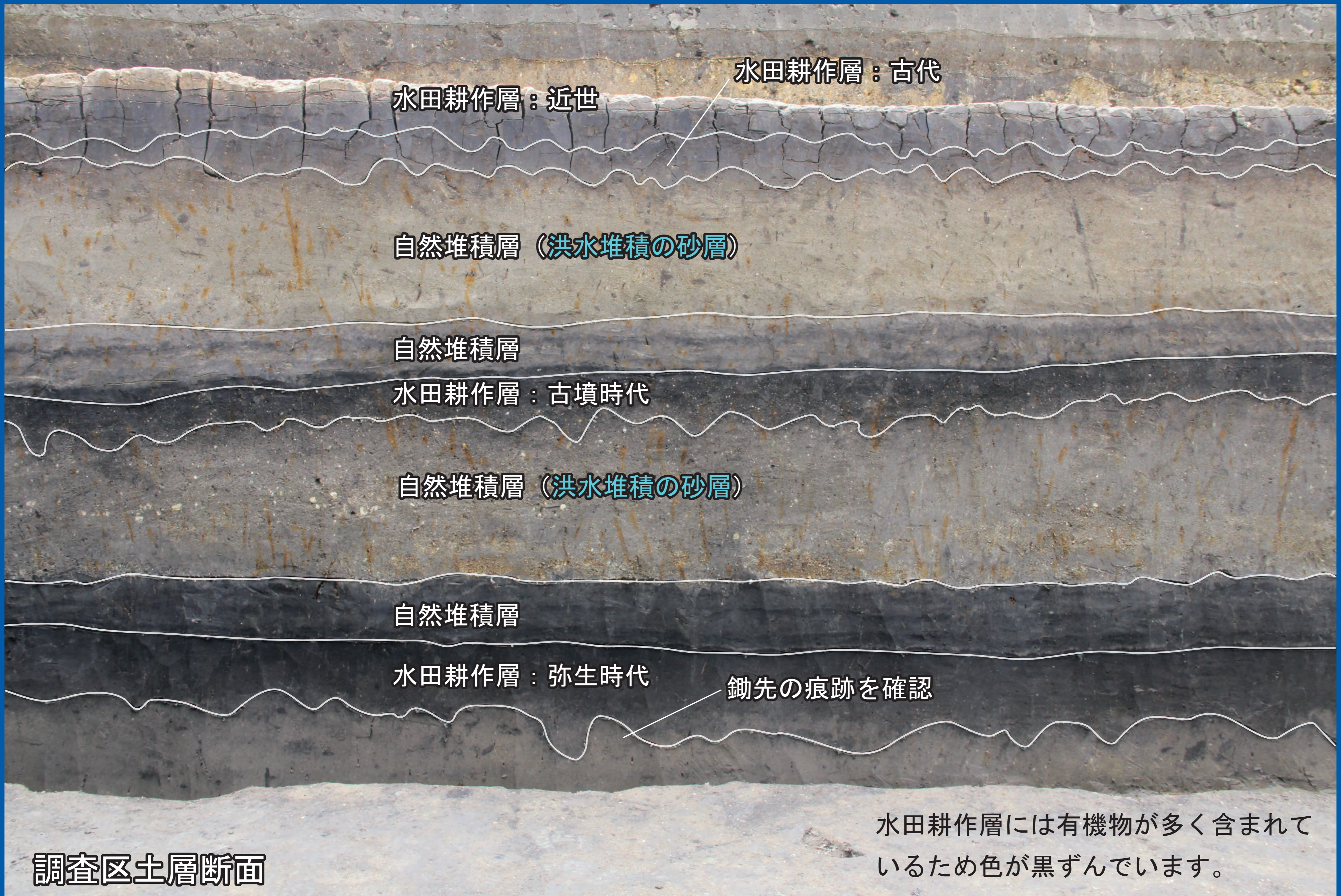
鎌倉

室町

安土桃山

江戸

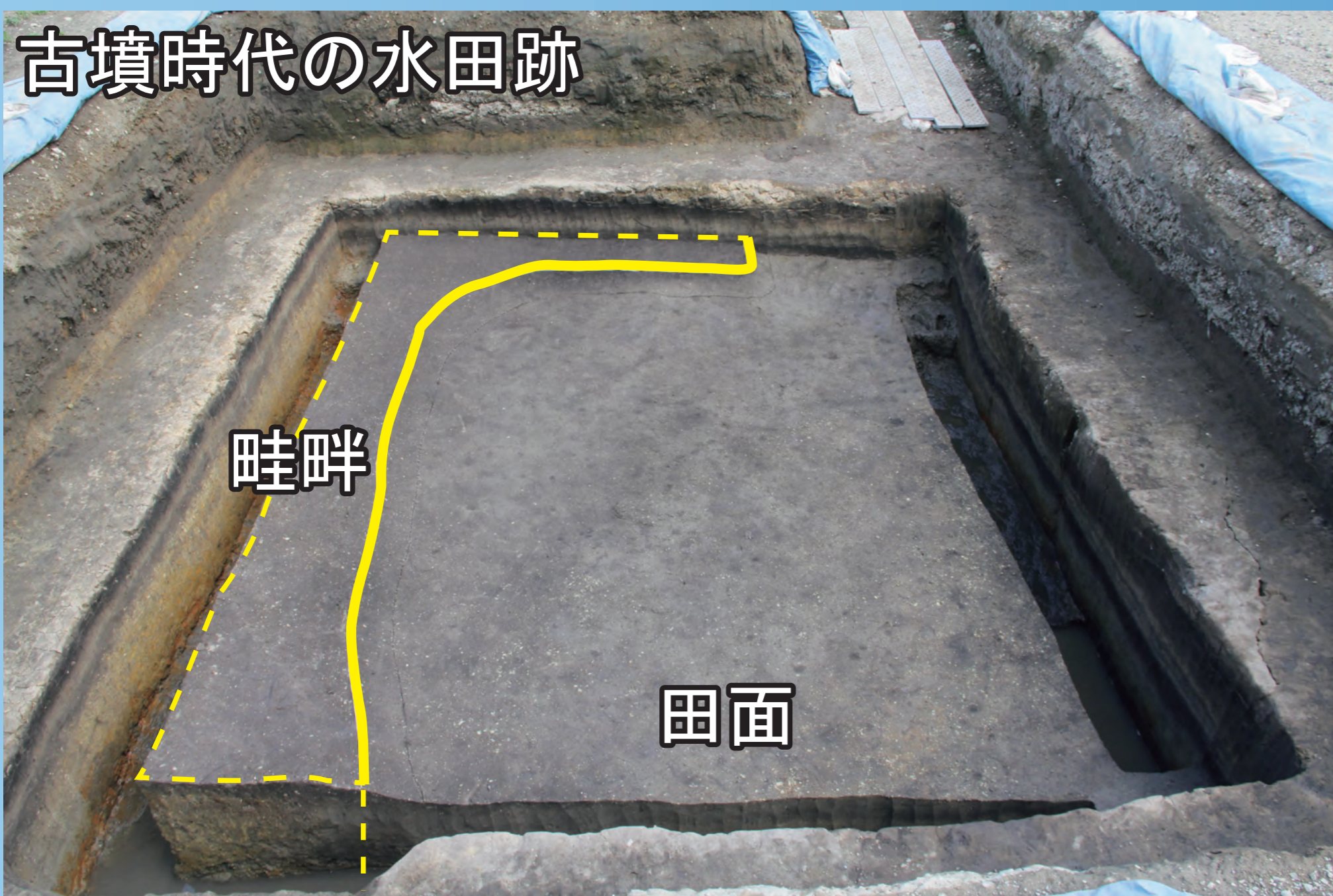
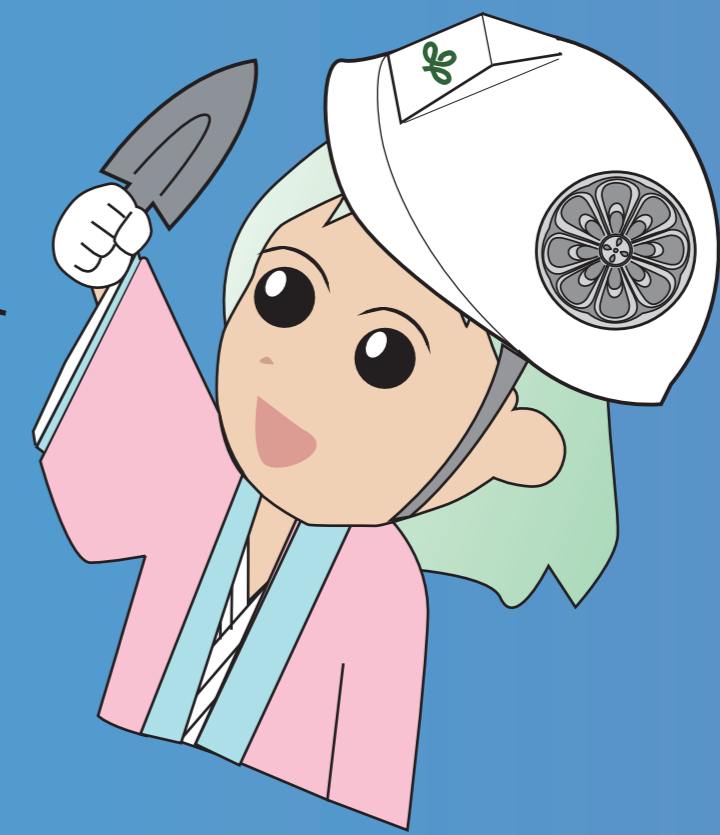
明治



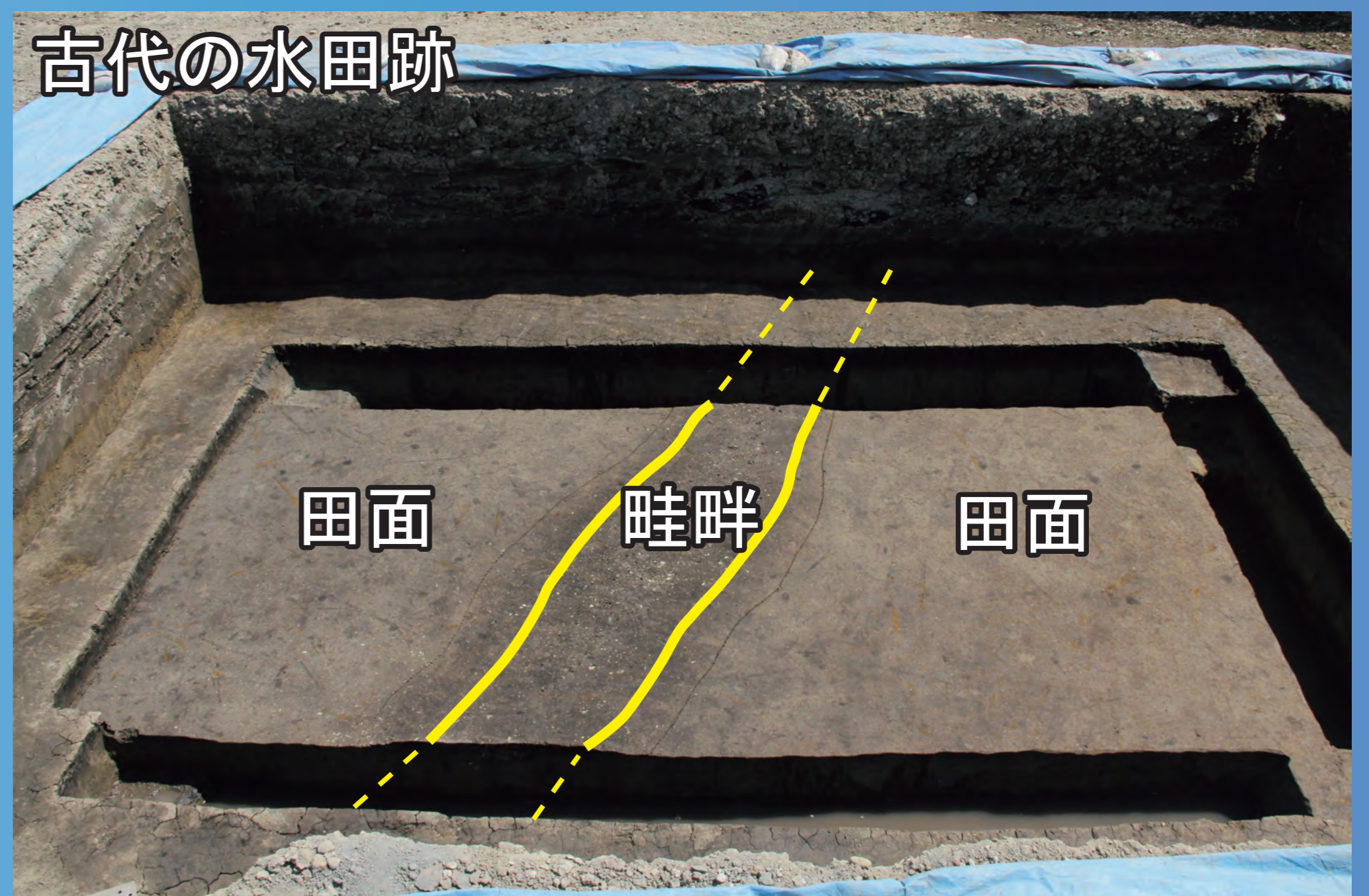
調査区土層断面

一番下の水田耕作層が弥生時代の層です。この層より上部の堆積の様子から、この場所が断続的に水田として利用されていたことがわかります。特に古墳時代・古代の時期は洪水による堆積の上に水田堆積層が確認でき、水田が同じ場所で営まれ人々の生活を支えていたことがわかります。

まるでケーキのようにきれいに色が分かれていますね。
調査ではこの層を一枚一枚慎重に掘り進めていったんだ！



古墳時代の水田跡



古代の水田跡

古墳時代と古代の水田跡では畦畔（あぜ）^{けい ほん}が確認されました。これにより、当時の水田も現代と同じように畦畔で田面を区画し、水の動きを制御していたことがわかります。

協力：仙台市教育委員会